

2年国語科「かさこじぞう」 R4. 1 日下部

ねらい:音読を通して、登場人物がどのような人物かを考える。



【工夫した点・意図】

3人ずつグループを組んで、三つの役割を交代しながら、音読をした。音読の後、友達の上手なところや、参考にしたいところを中心に話し合った。全体で話し合う際には、名前の挙がった児童に音読をさせたり、聞いている児童がどのように感じたかを話し合わせた。登場人物の気持ちを考えながら音読をさせることで、じいさまやばあさまがどのような人物かを考える手がかりとさせた。

- ①音読(個人)
- ②音読(3人)
- ③だんだんタイム(3人)
- ④だんだん発表(全体)
- ⑤個人で振り返り(書く)

【成果と課題】

- 学級全体で音読する際には気恥ずかしさを感じる児童も、小グループでは元気よく読むことができた。
- グループの友達に聞いてもらうという意識をもつことができ、意欲的に学習することができた。
- 読解が苦手な児童も動作を交えて音読をしたり、友達の音読を聞いたりすることで、自分なりに登場人物についての考えをもつことができた。
- △ 上手な音読ができている友達を紹介する際に、そのよさを十分言葉で表すことができず、教師が質問したり、言葉を補ったりする必要があった。今後も、このような形態の授業を継続的に行い、より豊かに自分の考えを伝えられるようにしていきたい。

課題意識

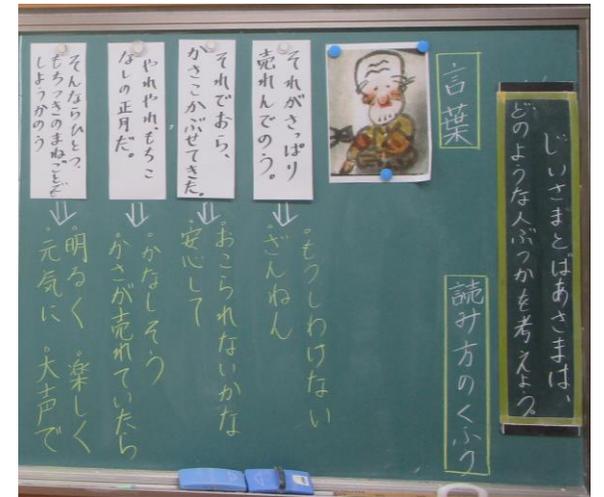
対話の活発さ



思考の深まり



スキルの習得



登場人物の気持ちや、音読の際工夫したことをまとめた板書